心を癒やす音を奏でる

smiling faces of miyakonojo

人の風景

音楽療法士として勤務

7月に愛知県名古屋市で開催された全日本津軽三味線競技会名古屋大会で、石角怜那さんが一般女性部門で日本一に輝きました。

一般女性部門には、全国から22人が本選に出場。石角さんは「津軽じょんがら節」を演奏し、見事優勝を勝ち取りました。「練習してきたことを意識し、自分を信じていたので、特に不安や緊張もなく演奏できた」と大会を振り返る石角さん。「4回目の挑戦でようやく優勝できた。次の大会から上のクラスに出場するので、より一層努力したい」と向上心を燃やします。

広島県で生まれ育った石角さんは、祖母の影響で6歳から民謡を習い始めました。8歳で津軽三味線に出会い、津軽三味線石井流家元の石井秀弦（しゅうげん）さんに習うため、宮崎の大学に進学。現在は都城で就職し、師匠石井さんの下で腕を磨いています。

津軽三味線の魅力を「音を創作し、自分の気持ちを入れた演奏ができる。同じ曲でも弾く人によって音色が違い、面白い」と話す石角さん。津軽らしさや曲の背景を勉強し、その情景を思い浮かべながら日々練習を重ねています。石井さんは石角さんについて「熱心で努力家。三味線を第一に考え、確実に力を付けている」と太鼓判を押します。

普段は、㈱トータルケアサービスで音楽療法士として働く石角さん。音楽療法士とは、音楽の持つ力を生かしたリハビリを行い、生活の質の向上を図る仕事で、石角さんは高齢者施設で、演奏会を行ったり、高齢者と民謡を歌い、楽器を演奏したりして心のケアを行っています。「三味線が身近にあった人もいて、演奏すると涙を流して喜んでくれる。音楽で、言葉や感情を引き出すことができ、音楽療法士としてやりがいを感じる」と笑顔を見せます。

津軽三味線・津軽民謡全国大会in倉敷でも、日本一の部で準優勝に輝いた石角さん。「現状に満足せず、津軽三味線の本場青森の大会で優勝を目指したい」と目を輝かせています。12月15日㈯の都城興玉（こだま）神社夜神楽大祭でも演奏予定です。

全日本津軽三味線競技会名古屋大会
一般女性部門優勝
津軽三味線・津軽民謡全国大会 in 倉敷
日本一の部　準優勝

石角（いしかど）　怜那（れな）さん

（名取　石井 秀英（しゅうえい））